(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回東村山市立図書館協議会				
開催日時	令和6年10月1日(火) 午前10時～正午				
開催場所	市立中央図書館 集会室				
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 野坂純司委員・臼田統志夫委員・竹澤廣介委員・鶴田良平委員・石河聡子委員・堀渡委員・黒尾和久委員 (市事務局) 空閑教育部次長(総合調整担当)・新倉図書館長・野口館長補佐・並木奉仕係長・中村富士見地区館長・藤山菘山地区館長・松井秋津地区館長・安保廻田地区館長・大野公共施設マネジメント課長補佐・平井公共施設マネジメント課主事 ●欠席者：徳永靖子委員・宮川健郎委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	無
会議次第	1. 報告 (1) 令和6年度事業の進捗について (2) 9月議会 (3) 利用者からのご意見 (4) その他 令和6年度市民表彰 2. 協議 公共施設再生アクションプランについて 3. その他				
配布資料	1. 令和6年度第2回図書館協議会次第 2. 令和6年度第2回東村山市立図書館協議会 報告資料 当日配布資料 1. りんごの棚リーフレット 2. 図書館スタンプラリー台紙				
問い合わせ先	事務局 東村山市立中央図書館 担当者名 野口 電話番号 042-394-2900 FAX番号 042-394-4107				

会 議 経 過

4月1日付着任教育部次長挨拶後退席。

(事務局) 今回の内容は事前配布資料の通りである。前回に続き公共施設再生アクションプランについての協議がメインとなるので意見をいただきたい。要求水準書へ意見を活かすため例年より前倒しの開催日程となっている。

本日、りんごの棚、図書館スタンプラリーの資料を追加配布した。りんごの棚とは様々な事情で本を読むのが難しい子どもに合わせた資料を紹介するコーナーで、今年度全館で開始した。図書館スタンプラリーは市立図書館開館50周年記念で行っている。

1. 報告

(1) 令和6年度事業の進捗について

(事務局) 図書館50周年、市政60周年の冠をつけて様々な事業を展開している。

中央図書館での製本講習会では東村山製本研究会にお世話になった。10月にも萩山図書館でブックカバーづくりの会を共催する。スタンプラリーは、8月から3月までの間に市内5館とくめがわ電車図書館を回ると図書の特貸し券を差し上げるイベントであり、開始初日にクリアした方がおられた。9月に紙芝居サークル「原っぱ」と共催した「大人のためのプレミアム紙芝居」は、ケーブルテレビの取材を受けた。市内の多くの団体に協力いただいてイベントが開催できている。今年度後期も共催でイベントを行う。築き上げた関係を大事にしていきたい。

(2) 令和6年3月議会より

(事務局) こちらは、最後に報告する。

(3) 利用者からのご意見

(事務局) 市長への手紙や問合せフォームから頂いたこの一年間の主なご意見を紹介する。貸出返却窓口のワンストップ化の要望があった。返却と貸出では窓口を分けているが、地区館では窓口を一人でやっている時間帯がある。中央図書館では混雑時には処理ミスの原因になるため対応が難しい部分があるが、検討した結果、全館で、混雑時を除き対応していくと回答した。

図書館ホームページについて、他市の機能との差についての意見があった。一部の市では過去の貸出履歴がマイページで見られるので導入してほしいとの意見だった。すぐには難しいが、来年度にシステム更新を予定しており、対応可能な機能の一つであると考えている。

勉強スペースについてもよくご意見をいただいております、独立した学習室は中央図書館にあるが、全体的に席数が足りていないことは感じている。

未所蔵資料の予約がネットで出来ないことへの意見があった。図書館でも状況は把握していて、システム更新時に検討する。

メール督促時に資料番号のみの記載だが書名がわかるとよいとの意見があったが、システム関係の課題はほかにもあり、優先度を考えて検討していく。

- 利用者から多くの意見をもらっているようだが丁寧な報告があった。図書館利用上の具体的な問い合わせが多いように思う。これについて意見などあるか。

- 過去の貸出履歴について、システム上データは残っているのか

(事務局) 現在は残していない。

- この意見はデータを残してほしいということなのか。

(事務局) 実例に上がった他市の図書館システムは、個人の履歴を残すかどうかを利用者が選べる機能があり、選ぶと、利用者個人のマイページに履歴が表示される。

- いい質問だと思う。これまで公共図書館では、貸出履歴を残さないようにしていたが、近年では残すことを特徴にしているシステムがある。ふつう図書館では、返却後は統計に使うデータのみを保持して個々の履歴は個人から切り離していたが、利用者から先ほどのような意見が出るようになった。一方で、学校図書館では教育的配慮から、残さないのは不自由で生徒指導のため残したいとの議論が過去にはあった。公共図書館も変わってきている。システム上のセキュリティの問題や読書の自由の観点から大切な議論である。自分で選択して本人が納得のうえで読書通帳を残すのを希望する人もいる。当市ではシステム更新時に検討するとのことだ。

(事務局) ネット書店では履歴が残るのが普通になっているので、その感覚なのだろう。先ほど紹介したシステムでは個人履歴は図書館側では見られないようになっている。

- ネット書店も公共図書館も本の世界は利用者の感覚として同じになっていて履歴を残す抵抗がなくなっている。このような細かく突っ込んだ意見が来るのか。

(事務局) 日常的な利用方法などもっと簡易なものが多いが、例示したようなものも多く来る。

- 具体的な業務のあり方の提案だった。図書館の回答では長期的な運用面も考える必要がある。

(事務局) 学習室への問い合わせでは、小学生の保護者から中央図書館2階の読書室を使えないことについて意見があった。一般的には年齢制限はないほうが良いと思っている。席数が十分でないことと2階は職員が常駐していないので、定期巡回はしているが、安全確保の観点で小学生は1階の利用をお願いしている。中学生優先席は大人が使いづらいとの意見もあった。

- 学習スペースへの意見は図書館に対してなのか、市全体に対してなのか。市としての担当はあるのか。図書館に来た意見を共有しているのか。

(事務局) 紹介したものは図書館への意見だが、この他にタウンミーティングでは全体的な学習場所としても図書館をイメージして意見が来る。この時は図書館に限らず提供可能な場所の回答をする。今回は図書館への直接の意見なので図書館の部屋に限定した案内をした。中央公民館にも勉強スペースがあるが案内はしてい

ない。

- 利用者を迎える施設なので意見が出るのは望ましいが、回答は長期的な運用も視野に入れて丁寧に行うことが必要だ。直接の会話と違いメールでは誤解を招かない丁寧な文章にする検討が必要だろう。ワンストップ化の要望があったが、これまでの対応は利用者が並ぶことが多かったからの図書館側の区切りだろうし設備設計の問題もあるだろう。

(事務局) カウンターPCはすべて貸出返却・検索など同じ作業ができるが、混雑時に、画面を切り替えて作業をすると、作業ミスが起こりうる。利用が落ち着いているときにはできる範囲で対応する。

(4) その他

(事務局) 図書館関連団体の「がらくた文庫」が団体として、また紙芝居サークル「原っぱ」指導者の加藤氏が個人として、市民表彰を受けた。「がらくた文庫」は萩山地域で活動されてきたが、40年を一区切りとして昨年活動を終了した。長年の功績で表彰された。「原っぱ」は団体としてはすでに市民表彰と文部科学大臣賞を受けているが、今回は指導者個人が表彰された。市政60周年記念式典時に表彰式があり市報に掲載された。

- 他になれば(2)の議会報告に戻りたい。

(2) 9月議会

(事務局) 公共施設再生アクションプランの公表もあり施設再生に関連した質問が増えている。

<一般質問>

(事務局) 図書館とはどのようなところかとの質問に対して、生涯学習の基盤施設で、子どもの居場所であり、ボランティアの受入れ、子育て支援、生活情報の提供などをやる場であるなどと説明した。冒頭に紹介したりんごの棚の設置だけでなく、庁内連携事業で自殺対策や多文化共生事業に協力している。10月1日から食品ロス月間なので連携コーナーを設置した。

萩山図書館共同閉架書庫について質問があった。所蔵の17万冊は市立図書館全体の資料として活用しているが、小学校の併設施設にすべてを移すのは難しく、蔵書計画を策定してジャンルや冊数を検討して適切に残すと答弁した。また、複合施設の管理運営について民間事業者への一体発注を想定すると記載してあるが、これは決定事項ではないと答えた。

<生活文教委員会 行政報告>

(事務局) 秋津地区子どもの遊び場安心エリア整備事業について子どもの意見をもとに施設の愛称をつける事業の報告をした。秋津地域の中学校の生徒から愛称を募集し、生徒会で候補を絞り込んで投票により決定することを報告した。2月に決定の予定である。

<決算特別委員会>

(事務局) 秋津地区子どもの遊び場安心エリア整備事業の進捗について、令和5年度は既存設備の撤去と防音窓設置、カーペット張替えをした。近隣中学校の生徒会に意見をもらい図書園の設計に活かした。ゲートボール場はボール遊びができるよ

う意見を反映した。令和6年度は図書館に花壇などを作り、令和7年度は芝生養生などを行い開園する。

図書館、公民館のネットワーク環境整備の進捗については、公民館が質問の中心だったが図書館も説明した。公民館はポケットWi-Fiの貸出を開始した。図書館は中央図書館のフリーWi-Fi化とネット端末の説明をした。課題として図書館のWi-Fiは館内すべてに電波が届くわけではないのでその改善と、地区館への拡大の検討をあげた。

電子図書館の利用について、令和5年度は導入2年目となるが、利用は若干増にとどまった。24時間アクセス可能な図書館サービスとして定着したが、子どもの利用が少ないため子ども向けコンテンツの充実や学校での利用をご案内するなど取り組んだ。子どもの利用は改善傾向にあるが、まだ利用の絶対数が少ないため、引き続き認知度向上とコンテンツの充実に取り組みたい。夏休みに小学生保護者にれんらくアプリで案内した結果一定利用があった。

アクセス数の質問に対しては、サイトへのアクセス数はカウントできないので閲覧回数で回答した。令和4年度6300件、令和5年度8400件になった。学校で利用するタブレットには図書館に直接アクセスできるアイコンを設置している。蔵書管理の流れについての質問には、資料の内容などで開架から各館の閉架へ移し、その中から長期保存が必要なものは萩山共同閉架書庫に移管している。廃棄は除籍基準に基づき随時行っていることを答弁した。

学校図書館と公共図書館の蔵書計画の責任者はだれかとの質問があった。令和5年度に小中学校の蔵書調査を公共図書館が行った関係で聞かれた。公共図書館は学校図書館に支援を行っているが、学校図書館の責任者は学校長であり、公共図書館の責任者は図書館長であると答弁した。

指定管理者導入の議論については、図書館協議会以外に教育委員会として議論を行ってきた。施設再生計画は複合サービスの提供を目的としているので一体管理のために指定管理者導入も検討の範囲に入っており、一定のメリットもあると考えているとの答弁をした。

- 多面的な内容だったが、そもそもの質問の意図が分かりにくい感じがある。

- 電子書籍の質問は多いか。

(事務局) 導入後2年が経ち、使用権利が消滅したタイトルがある。紙の本とは違い使えるのに期限があるタイトルがあるが、情報更新が必要なタイトルでは入れ替えのきっかけになるいい面もある。

- 電子書籍の図書館での提供は期限付きだが、それでは厳密には収集ではないので「収集方針」でいいのかとの議論がある。電子書籍の場合は利用方針、提供方針か？

(事務局) それは感じている。

- 違うニュアンスの名称にした方が良いかもしれない。市議会での電子書籍に関する質問の意図は、さらに数の充実を求めているのか、内容のバランスを求めているのか、費用対効果が問題なのかがつかみにくい。

(事務局) 紙を電子に置き換えるべきとの意見もあるが、有期限だとそれができない。

2. 協議 公共施設再生アクションプランについて

(事務局) 今回は公共施設マネジメント課が出席している。

- スケジュールについて春に聞いたのと変更があれば教えてほしい。

(事務局) 3月末に公表したアクションプランでは全体のことと萩山小学校に特化した内容でまとめている。条件を勘案して最初に萩山小学校が近くの施設と複合化することを記載した。令和12年度に開校のために令和11年度に新校舎が建ち、令和12年度に現校舎を取り壊す予定である。併設コミュニティスペースは一体的に運用する想定であり、全体の運営を検討するため令和8年度確定を目指して考えていく。市の事業は予算、担当所管決め、場合によっては条例改正が必要になるため数年前には方向性を決めて準備する必要がある。協議会には、図書館運営での大切な部分は何かを議論していただきたい。

- 運営体制の決定までは時間があるようだ。設計を今年度中にやるのか。

(事務局) 設計・施工・維持管理までを先に一体発注する。どのような建物にしたいかが要求水準になる。アクションプランに箱モノとしての外枠は決めてある。例えば国旗ポールは共通ルールがないために本数を市が決める必要がある。図書館はスペースの都合で蔵書冊数が全体で7万冊としているが、プロポーザル時にはそれ以上の開閉架別の冊数などは細かく設定せずに柔軟な提案が出ることを期待している。図書館施設の法令上の基準はなく将来的な使い方を想定して、例えば防音設備はこれくらい必要などの詰めの作業をしている。

- まとまっていなくても意見を出して、担当者に意見を聞いてもらう会でよいのではないか。スケジュールは2段階となり設計は令和7年度提案のため先行して、運営形態は令和8年度に決定するとのことだ。整理するとアクションプランでは学校を核としているためコミュニティスペースは学校との関係を考える必要がある。コミュニティスペースにはいろいろな施設が入るが、図書館としては公民館以外との合築経験がないが新たな可能性を考えたい。東村山市の施設はこれまで都営住宅との併設が多いため学校との合築で状況が変わっていく。最初の萩山がモデルケースになる。
- 新図書館の蔵書想定が7万冊では、共同閉架書庫の分は別問題である。十分な閉架書庫の収蔵量を別に確保してほしいとするのが当協議会の前提の意見になる。
- 建物は縦方向にはどういう配置になるのか。1階をコミュニティスペースにするのだろうか、図書館は1階が前提なのか。2階になった時は何が必要かを考えておきたい。例えば書店や他の図書館からの図書の搬入路はどうあるべきか。搬入口が利用者兼用になってもいいのか。各施設の類似した部屋を重ねて配置して全体の面積を減らすのだろうか、合築をメリットがあるものになりたい。

- 学校施設との関係を聞きたい。セキュリティの問題で学校図書館が別にあり、そこには市民は入れず子どもは公共図書館側へも行けるが、混在はしないというイメージか。
- 子どもの頃から学校図書館を利用しながら公共図書館も使うと、大人になっても図書館利用者になると期待している。教室棟とは別の特別室棟に調理室や体育館を配置するのだろうが、建物の出入りを安全に区切る必要がある。子どもたちが校舎の中からコミュニティスペースに出入りできると便利だろう。今までのサービスの維持ではなく最終的に市民の新たな活動が生まれるようにしていきたい。各施設でほしい部屋は同じで交流の場にするのが共通意見なのではないか。知っている範囲では子ども食堂として、料理したいとの要望がある。図書館の資料を使って調理室で料理をするなど使い方が広がりそうだ。授業で使うときとの切り分けが難しいが。
- 一般利用者と子どもの動線イメージはどうなるのか。

(事務局) まとめての回答になるが、アクションプランに現時点で想定していることは記載している。セキュリティの心配は市民との意見交換会などでも出ている。考え方は全国の施設でパターンがまちまちで、利用者である大人が見ているのだからシステムで監視はしない、動線を分ける、監視システムを入れるなどとなっている。当市では動線を分ける方向でまとまっている。建物の中で密接になる施設は学校側から行くのは容易だが、反対側から行くのは難しくする考えだが詳細は決まっていない。立川市の複合施設では可動式のパーテーションで普段は区切っている。そのイメージが近いと思っているが、要求水準書にどう言葉として載せるかは未定である。大切なポイントは古くなった施設をすべてそのまま建て替えることができないため、設備的に前時代的なものや機能を終えているものを統廃合して減らしたうえで、機能を向上していくことである。図書館でしかできなかったことを複合施設全体でできるようにすることで場所を確保したい。

- 道路からの入り口は子どもと一般利用者とは別にして、学校からは入れてもコミュニティスペースから入るのは避けたい。学校のグラウンドとは別に施設の庭が欲しい。出入り自由な内庭にしてにぎやかに読める場所が欲しい。他市で合築施設の庭で公民館祭りをやっているところがある。学校グラウンドとは違う活動に使える場所だと可能性が広がる。
- 青空イベントをやっているところがある。屋上庭園もあるとよい。部屋が減り狭くなるなら屋外もうまく使いたい。
- 週末の校庭の市民開放の他に、平日に使える別の広場があると良い。コミュニティスペースでの合同イベントの可能性を考えたい。学校施設は必要な教室を積み上げて設計するがコミュニティスペースは自由な発想でできるのでは。

(事務局) 使い方のイメージは個人的に同感である。しかし敷地全体をどう整えるかの観点で校庭の広さを考える必要がある。萩山小学校は敷地が広めだが学校用の校庭面積を確保する必要があり、コミュニティスペースに偏った配分はできない。例えば駐車場は学校関係者用以外に、学校給食の配送トラック用、特別支援学級

送迎専用、コミュニティスペース利用者用が必要になる。また、プールは作らないことにしているので、外部施設への送迎のためバス乗り入れ場所が必要となる。校庭と駐車場は必ず必要になるので、プラスの場所としてあると良いなというレベルで庭を入れておくと設計者からの提案につながるかもしれない。内部で相談していきたい。

- 今後の児童生徒数の総人数の見込みはどうか。その中で萩山小学校は、合築後にさらに児童数が減るなら学校の不要部分のフレキシブルな使い方を考える必要がある。使う側としては、自分が高齢になった時に子どもと触れ合えるところがあるべきと思う。議論を喚起する案を作してほしい。
- 現在は都営住宅に多くの施設が入っているが、建て替えを待つのではなく先に学校再編に合わせて動くのか。

(事務局) これまでは東京都の建物に入り、低コストで使えるのがメリットだったが、都営住宅は都において一定の築年数で建て替える方向で進めており、具体的なことは直前まで示されない上に、建て替え等の判断に市は関与できない。その決定によって、市が公共施設の機能を提供できるか否かが変わるため、急に提供不可という事態は避けたいと考えている。

児童数は、萩山小学校に限らず減っている。萩山小学校は各学年2クラスずつになっていて、長期的かつ市全体では、単純計算だと学校同士の集約も必要となるが、考え方としてはクラス替えができる人数を維持したい。萩山小学校に特別支援教室があるのは、空き教室が多かったという理由もある

- ふるさと歴史館も複合化するイメージか。

(事務局) 基本的にはすべての公共施設が再生の対象になっているが、令和12年度までに着手できるのは3事業と見込んでおり、萩山小学校のほか、富士見エリアと化成小学校を早期着手校と設定している。化成小学校は萩山小学校より古いですが、高低差の大きい学校敷地や前川の溢水対策などの解決までに時間を要する課題があるため現在の校舎のリニューアル工事をする予定であるふるさと歴史館の入っている都営住宅はまだ築30年のため長期間使える想定でいる。

- 動ゾーン、静ゾーンのほかにタイムゾーンも視野に入れたい。区部に1階がカフェラウンジになっていて、上階の図書館は夜8時まで、公民館は10時までだが、図書館の一部が遅くまで使えるところがある。基本の時間のほかに遅くまで開けている施設と合わせて使えると良い。設計段階で配置を考えておくと運営時間が柔軟になる。
- 部屋の置き方について開館時間と、個人利用・集団利用の違いで部屋がどう並ぶのかスペースの取り方を教えてほしい。

(事務局) 動・静ゾーンとして載せているが言葉だけだと幅広な提案になりそうなので、具体的にするために検討を深めていきたい。配置の考え方は、市役所内でモデルプランを作成したが今後の事業者選定における事業者からの提案を制限しか

ねないので公表しない予定である。入り口はコミュニティスペースの一部として図書館と他施設は一つになるかと思う。

- 視覚障害者サービスで対面朗読や録音をしている。このサービスに使う部屋や場所は、おしゃれな明かりでなくてよいので十分な照度があり防音だとよい。また調査のためにネットを使うのでWi-Fiが通じるとよい。新型コロナの時に換気に不安があり対面朗読を中止にする利用者がいたので、換気がしっかりしているとよい。
- 障害者サービスの地域展開のために必要な部屋を確保したい。

(事務局) Wi-FiはGIGAスクールで学校児童用の回線がすでにあるが、セキュリティを確保したうえで一般に回線開放する構想がある。換気と照明は建築基準で満たされているだろう。防音室はコミュニティスペースにカラオケができるスタジオを作る予定なので兼用できるのではないか。おはなし会スペースは小上がりのイメージでいるが部屋を作るか悩ましい。

- 対面朗読室は狭くていいから確保したい。

(事務局) 防音のグレードのイメージはあるか。

- 厳密でなくてよい。今の部屋だと換気が悪い上、Wi-Fiが入らない現状がある。
- 現在ある部屋の欠点をつぶしたいということだ。

(事務局) 防音は完全でなくてよいとの事だが、音の遮断は外からか内からか。一般的な間仕切りで良いのか。

- 読書はプライベートなことなので読みが外に聞こえるのは良くない。

(事務局) プライバシーの感覚として分かった。

- 対面朗読とは別に、朗読の録音もできるかの検討も必要。録音の時は外から音が入ると困る。

(事務局) オンライン会議のイメージでよいと理解した。

- 製本関連のイベントは地区館では公民館でやっている。萩山は料理教室を使用している。
- 課題があるが現在の図書館の機能を入れて建て替えることは評価している。

(事務局) 時間となったので閉会にする。

(次回の開催日) 令和7年2月頃予定